

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(豊里中学校)

平均正答率等

自校の平均正答率等と県の平均正答率等との比較

※理科は一部の問題について非公表のため、正確な平均正答率は不明

	国語	数学	理科(平均正答数)
豊里中	52%	54%	3.0 / 6
埼玉県	55%	50%	2.9 / 6
全国	54.3%	48.3%	2.9 / 6

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	豊里中	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	98.0	91.7	91.2
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	89.6	81.7	81.0
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	93.8	92.8	92.6
学習習慣	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	70.8	81.0	77.5
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	73.0	66.8	61.5
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	48.0	37.4	32.5
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上、読書をする	20.9	22.1	21.4
教科への関心	国語の勉強は好きだ	54.2	58.5	57.9
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	95.9	89.5	88.3
	算数・数学の勉強は好きだ	60.4	53.5	53.8
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	93.7	74.3	75.2
	理科の勉強は好きだ	50.0	64.5	63.8
	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	79.2	64.2	63.4
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	81.2	83.0	77.7
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	77.1	71.2	63.0
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	85.5	77.7	70.6
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた	91.7	88.0	84.7
その他	自分には、よいところがあると思う	89.6	88.0	86.2
	将来の夢や目標をもっている	70.9	69.9	67.5
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100.0	96.8	96.6

公表例

【質問紙分析】

- ・朝食を毎日食べ、起床時間・就寝時間が安定している生徒が多い。
- ・学校の授業時間以外に勉強する生徒が多く、よい学習習慣が身に付いている。
- ・7割以上の生徒が各教科で学んだことが社会に出たときに役立つと考えており、学習に前向きな気持ちで取り組むことができている。
- ・授業に主体的に取り組む生徒が多い一方で、考えを発表する機会で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することに苦手意識をもっている生徒が2～3割程度いる。
- ・9割以上の生徒が、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。
- ・多くの生徒が、自分にはよいところがあると感じ、将来は人の役に立つ人間になりたいと考えている。その一方で、将来の夢や目標が明確になっていない生徒が3割程度いる。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

- 「文章の全体と部分との関係の注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える問題」の正答率が高かった。
- 「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする問題」の正答率が高かった。
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができていない。
- 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができていない。

【数学】

- グラフから必要な情報を読み取る問題やグラフを用いて説明する問題など、「関数」領域における問題の正答率が高かった。
- 相対度数を求める問題や確率を用いて説明する問題など、「データの活用」領域における問題の正答率が高かった。
- 割合が関わる数量を、文字を用いた式で表すことができていない。
- 文章を正しく読み取ることができておらず、問題と正対した答えが出せていない。また、反例をあげることができていない。

【理科】

- 「塩素の元素記号を記述する」の正答率が高かった。
- 「生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する」の正答率が高かった。
- 化学変化を原子や分子のモデルで適切に表すことができない。
- 地層ができた当時の環境が推定できる化石に関する知識と表現力が乏しい。または、地層が断裂する理由が確立しておらず、他の現象に影響を受けてしまっている。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・複数の資料を比較する授業を行い、課題を解決するために必要な情報を正確に捉えるように指導する。また、話し合いを通して相手に伝わりやすいように工夫するなどの回数を増やしていく。
- ・読み手を意識した文章や話し方を考え実践する授業を行っていく。

【数学】

- ・意図的に文章問題を取り入れ、問題や用語の意味を確認してから問題を考えるように授業を展開する。
- ・授業の中で既習事項の確認と問題演習を積極的に取り入れる。
- ・主に「図形」領域において、条件を変えたらどうなるかを考える時間を十分に設ける。その際、ICTを用いて理解がしやすくなるように工夫する。
- ・学力向上プロジェクトを通して、繰り返し問題に取り組むことで「分かる」「できる」感覚をつかませ、前向きな気持ちで学習に取り組めるように指導する。

【理科】

- ・物質の変化を粒子レベルでとらえ、質量保存をする中での原子分子の組み合わせが説明できるよう、モデルを用いて視覚化させる機会を十分に取り、必要に応じて演習を行っていく。
- ・文章による解答において、他者にも理解できる十分な内容を導きだし表現できるように、授業の中で記述の演習や口頭でのやり取りを丁寧に行っていく。

【その他】

- ・学習した内容が定着しにくい傾向があるため、繰り返し活動を行っていく。